

12月21日(水) 18:30~



会場：静岡県評会議室

第116回定例研究会

だれでも参加できます

## 貧困化する大学生の日韓比較

—学費ローンと負債世代言説の観点から—

報告：福島 みのり 氏(常葉大学 講師)

### これからの企画

- ◆第117回定例研究会  
・日時…1月18日(水)  
「静岡県の公契約条例」  
林克氏(静岡県評議長)
- ◆第118回定例研究会  
・日時…2月23日(木)
- ◆春のシンポジウム  
・日時…4月8日(日)  
13:30~  
「アメリカ労働運動の新潮流とサンダース現象」  
伊藤大一氏  
(大阪経済大学准教授)



### 生活費を稼ぐためにブラックバイト

大学教育のあり方をめぐって、韓国では2010年3月のキム・イエスルによる自主退学宣言、その後授業料半額デモが大々的になされてきた。2010年、イギリスのロンドンでも大学授業料値上げ反対運動の暴動が起き、2012年にはカナダのモントリオールやケベックでも学費値上げの抗議デモが行われ、今や大学生の生きづらさはグローバル規模で拡大している。

日本でもようやく2014年あたりから、大学生貧困言説が登場し、POSSEの2016年9月号では『絶望の国の不幸な奨学金』が特集されるなど、生活費を稼ぐためにブラックバイトに明け暮れ、授業参加もままならない大学生、卒業後ブラック企業や非正規の職に就き、奨学金を返済できなくブラックリストに載ってしまった若者の生きざまがテキストやメディアで報じられるようになった。若者論は今や「負債世代」とネーミングされるようになったのである。

本定例会では、若者問題の社会現象が類似している日韓両国の比較を通じて、2000年以降若者論の対象がどのように変化してきたのか、中でも大学生の貧困化に焦点を絞り、高等教育と家族福祉、非正規雇用として生きる負債世代、若者の社会運動という視点から考察してみたい。